

SRID NEWSLETTER

No.301 DECEMBER 2000 国際開発研究者協会 創設者大来佐武郎
〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階 FASID 内

ヨーロッパ旅日記再開の夢

ポウ市アデュール地域総合大学

今井正幸

随分昔、「北の国、南の国—永遠に老いまじき」の題名でヨーロッパ一人旅と土漠の渦巻くアルジェリアでのプラント建設現場の姿を書いた。「永遠に老いまじき」の副題が面白いと評されて気を良くした覚えがある。いささかならず、斜に構えたような筆致で汗顔のきわみだったのだが。

1970 年代の前半には相当数のヨーロッパ諸国を訪ね歩いたが、それ以降はちょっと立ち寄るか、または短期間の調査に携わったくらいであった。しかし、今回のフランス滞在を利用してまたまたヨーロッパを歩き、さらには未訪問の国々まで食指を伸ばして旅をし、旅行記を綴ってみたいとの意欲を持ったが、はて、これが長く続くか否かは疑わしい。ともあれ、この3ヶ月間に旅したことを綴ってみよう。

先ず1年間住むことになったポウとその周辺についてだが、私がフランス南西部、スペイン国境に近いポウを初めて訪れたのは3年前、学生研修の候補地調べのためだった。ここポウはブルボン王朝の初代国王であるアンリ4世が生まれた城があり、ナポレオン1世が作ったピレネー大通りからは文字通りピレネー山脈が一望出来る観光地である。長年勤めている市長の方針で街路には花が植えられ、公園は綺麗に整備され、近隣の人々から「ポウは美しい町」と言われている。

ポウから急行で30分のところにルールドというカトリックの聖地がある。ベルナデット・スービルーという14才の少女の前に聖母マリアが現れて奇跡の泉を発見したといわれ、今でもその泉はこんこんと湧き出ている。年間150カ国から500万人が集まるカトリック最大の巡礼地である。先日トゥールーズに行く列車の中で多くの巡礼帰りのフィリピン人と歓談し、改めてキリスト教の重みを感じたものだ。もっとも、このフランスはどんな地方都市に行っても由緒ある教会、聖堂、修道院があり、その故事来歴は無数にあるだろう。

10月の半ば、大西洋岸の町バイヨンヌ、ビアリッツとスペインのサン・セバスチャンに一泊旅行に出かけた。10月初め、ユーゴスラビアの首脳をも招いてEUサミットが開催されたビアリッツは昔は王侯貴族の避寒地であった風光明媚な海岸である。10月だというのに海を楽しむ人々があちこちに見られた。王侯向けに全てがデラックスかということ、そんなことはなく、こじんまりとして垢抜けた明るい町であ

った。此处での楽しみは来夏に期待して、さらにサン・セバスチャンに足を伸ばした。この中世末に栄えた港町は壮大な中世の遺産とその優雅な海岸線で我々を一驚させた。又ここは今独立問題でもめているバスク地方の中心でもあり、訪ねたインフォメーションの名前は「Office de Tourisme du Gouvernement Basque」であった。昼には Bar のカウンターで立ったまま、がやがや楽しんでいる地元の人々に混じって、大皿に盛られた安くておいしい食べ物をつまみながら飲んだのがスペイン旅行の醍醐味であった。ただ、午後 1 時から 4 時までは殆どの店が閉まってしまい、町にも人影が少なくなってしまうのは観光客としてはとても不便である。

少し遡って、8 月初めボウに到着後 3 週間ほどは生活設計と日本側への対応に明け暮れていたが、8 月下旬には南仏に出かけた。ニースと近郊のアンティポリス〔ヨーロッパのシリコンバレーを目指しているといわれる〕、モナコは 3 年ほど毎夏訪れていたのだが、今夏はイタリア国境に近いマントンも散策した。29 年前の留学時代、夏期講習で EC の通貨統合などを各国の学生と議論した「ポール・ヴァレリー・カレッジ」に偶然辿り着いた。不思議な感懷をいただいた。あの時ただ一人の東洋人であった私は意見を求められ、とつとつと語った「いつの日か欧州は通貨統合を実現するだろう」と。その夢が私が又この海岸に来ている今日、現実のものになりつつあるとは。

さらに北上して、パリ、アムステルダム、ブリュッセルと歩いてみた。これらの古い都市は何十年経ってもその姿は余り変わらない。ただ、落ち着いた美しい町であったブリュッセルは何故か夜は暗く、いたるところ工事中でゴった返していた。EU の本部は拡大しつつけているが、どうも大官僚主義が次第に蔓延している印象もある。未熟な組織と巨大化した組織にはいずれも人脈万能の原理が働くのかなと日頃の疑問が脳裏をかすめた。

9 月末、パリの国際シンポジウムに参加した後、ミュンヘンのビール祭りに飛び入りし、懐かしのザルツブルグからブタペスト、プラハ、ウィーンへと駆け歩いた。中欧の 2 カ国は 5 年振りである。ブタペストではハンガリー舞曲に溶け込んで夜を楽しむ人々には昔ながらのゆとりを感じたが、はたして全てが好転しているのか？ 電力不足から古き街はあまりに暗く、メトロの入り口には老人がささやかな花束を持ってじっとたたずんでいる。また、旧 KGB の名残のようなメトロの査察官の高圧的な姿勢はこの街への訪問客のイメージを悪くするのではないだろうか。大蔵省のスポークスマンが力説した外資導入策の効用も数年後を待たねばならないだろう。

次に訪れたプラハは光と音の洪水であった。既に 5 年前に 900 万人の観光客を迎え入れたといわれていたが、まさにカレル橋から旧市街広場は観光客であふれ、細い路地には有名なガラス製品、宝飾品から絵葉書まで土産物屋がにぎやかに軒を並べていた。そして道を親切に案内してくれた女学生、真剣にホテルを考えてくれた土産物屋の店員など皆感じ良い人達であった。チェコは 90 年代の後半に政策の失敗と成長低下が公に報じられている。しかし、経済不況と首都の姿はいつも一致しているものではないようだ。「開発と観光」の命題を想起させられた数日だった。

ウィーンは何度訪れても悠然とたたずんでいる、まさしく中西欧の王者の街だ。昔、中庭でオーケストラに聴き入った市庁舎や映画「うたかたの恋」のルドルフ皇太子とマリア・ヴェチェラの心中事件が起こったマイヤーリングを訪れたが、なんだか「心の旅路」になってしまった。飛び込むように訪れた UNIDO では 10 数人の専門家から話を聞くことが出来、大変啓発された。ウィーンからパリ東駅まで夜行で 14 時間、さすがに疲れたが、やはりパリに着くと何故か安堵する。これからもパリにもどるたびに味わうであろう感慨である。

ところで、以前同僚の教授が「調べてみたら、何と海外出張が 100 回になっていた」とやや得意然に語っていた。畏友の中には 100 カ国歴訪の人もいるという。数えてみたら私の訪問国数は約 70 カ国。ちょっと口惜しい。そこで国ではなく都市や地域を数えてみようか。そう思ったらサハラ砂漠の真中のガルダイヤ、モロッコの古都や海岸のタンジール、アジア各国の辺境の地やパプアニューギニアの山奥などが思い出されてきた。これで対抗できるかな？

今後のことは言わぬが花なのかも知れないが、この冬は南仏のサン・ポール・ド・ヴァンス近くのバカンス村から始め、機中で素晴らしい映像を観たコルシカ島に渡り、昔機会を逃したシシリー島とイタリアのアドリア海岸を回りたい。そして残りの月日で南スペイン、北アフリカ諸国とバルト三国か中央アジアはどうかな。それに安いツアーの中南米は今回が最後のチャンスかななどと今は夢想ばかり追っている。

インドネシアでの滞在を終えて

日本興行銀行 企業投資情報部
千石 康人

インドネシアには、94年12月から2000年6月までの5年7カ月滞在しましたが、滞在期間中、日本ではできない貴重な体験ができたと思っております。

第一には、98年5月の暴動とそれに続く歴史的な出来事「スハルト政権の終焉」です。すでにスハルト政権は、96年に国民車製造ライセンスを3男に与える等、ファミリービジネス推進も目に余るようになり、ポストスハルトを見据えた政権交代シナリオの噂もありましたが、私自身は、あのような形で政権交代が突然やってくるとは考えてもおりませんでした。暴動当日、会社は中心街に位置していましたが、黒い煙があちこちに発生し始め、一般交通網はストップ、軍隊が道路上に溢れ、戦車が行き来するような状況でした。この時の暴動は、華僑系市民を狙った無差別攻撃でしたので、日本人が狙われる可能性もあり、相当緊迫感があったと記憶しています。国レベル、会社レベル、個人(家族)レベルでの危機管理の重要性を思い知りました。

以降、98年11月、99年6月(総選挙実施時)、99年10月(大統領選挙時)等、節目節目でデモがあり、会社も臨時休業せざるを得ない日が数日ありました。しかし、98年5月の暴動とは違い、学生によるデモの性格が強く、ある人種を狙った

無差別攻撃ではなかったため、緊迫感は随分少なくなっていました。

このような状況は、現在の日本では考えられませんが、民間の声が、それまで30年以上も続いたスハルト政権を終焉させ、その後もこれまでの膿を取り除くべく、デモを通じて学生・市民が立ち上がっており、そのパワーの凄まじさには驚くばかりです。

第二には、第一の首都ジャカルタを中心とした体験とは大きくかけ離れますが、ジャワ島以外の島での体験も私にとっては貴重でした。趣味として、海釣り（マグロ、アジ等）をしていましたので、よくロンボック島（バリ島の東）で漁師の船に乗せてもらい、釣りに行っていました。夜、釣った魚を調理して、漁村の海辺で食事をし、地元の漁村の人々と接することができましたが、ジャカルタとは全く時間の流れが違い、むしろジャカルタが例外で、殆どのインドネシアはこのような感じなのだろうと思いました。自然の中でゆったりと暮らす本当のインドネシアを見た思いがしました。

今もインドネシアは、ジャカルタでの爆弾事件、ジャワ島外の島での騒乱等、政情不安状態は続いていますが、今後の安定化のためには、ポストワヒド政権を見据え、古い体制と繋がりのない若いリーダーが早く出てくる必要があります。

又、何年後になるか分かりませんが、もう一度インドネシアに赴任し、政情不安を乗り越え更なるインドネシアの飛躍をこの目で見ていきたいと考えております。

フォスタープランに参加して

事務局 三上 素子

S R I Dの事務局をお引き受けしてから5年近くになりました。その間、お仕事でお忙しい会員の皆様にニュースレターの原稿をご無理を言ってお願いしてきました。ニュースレターに書くような国際協力経験はまるでない私ですが、催促ばかりでは申し訳ないので、15年余り参加しているフォスタープランについて少し書かせていただきます。

私達夫婦がフォスタープランに参加したのは、結婚して半年くらい経ったころでした。

何とか新生活にもなれてきた折に、フォスタープランのことを新聞広告で知りました。ただ、お金を送金するだけでなく相手の様子がわかる援助で、こちら側も「手紙を書く」という物理的な労働を伴うという点にひかれました。

それともうひとつ、自分達のこども以外にも、何か次世代のために役に立つことをしようと思ったからです。

毎月の援助額である5千円／月は当時の私達にはかなりの負担でした。現在は日本フォスタープラン協会も財団法人になり、年末控除で税金の還付を受けられますが、当時はまだ寄付控除も受けられませんでした。

先月3人目のフォスターチャイルドがプランを卒業したとの連絡を受けました。とてもうれしい連絡なのですが、最後の手紙を書くのも同じぐらい寂しいものです。

最初に紹介されたのは、インドネシアの女の子でした。フォスターチャイルドの国や、性別はある程度自由に選べますので、生活が身近に感じられるアジアをずっと選んでいます。Siti ちゃんという6歳の子で、最初に送られてきた写真は白黒でした。カメラをにらみつけているような鋭い目つきのブラウスとスカートをはいた女の子で、私の小さいときにそっくりでした。

Siti ちゃんとは6年お付き合いをし、Siti ちゃんが小学校を卒業すると同時にその地域からフォスタープランも卒業しました。

次にはタイの男の子を紹介してもらいました。我が家にも二人の男の子が生まれていたの、フォスターチャイルドからの手紙を2人に読んで話していました。

「世界にはいろいろな子供達がいて、いろいろな生活をしている。」ということも少しでも覚えていてくれたら、との思いからです。しかし「アフリカの子供たちは、食べるものもない。」という話を夕食時にした時に、「じゃあこのご飯を送ってよ。」と今食べている食物を指したときには、その気持ちは大事だと思いながらもどのように説明したらよいのか考えさせられました。

3人目は、スリランカの男の子 Thanju 君です。幸いにも我が家の長男と同じ年で、長男がフォスターチャイルド宛ての手紙の下書きを日本語で書きました。「お母さん、ちゃんと英語に訳してる？どうもなんか僕の書いた手紙より短くなっているみたいだよ。」と言われながら、自分の興味の向くままに書いた長男の手紙を訳すのに苦労しました。Thanju 君とは5年あまり、お付き合いをしました。「一度、スリランカに遊びに行きたい。」と書いたら、その後3通ぐらい「いつスリランカに来るのか？」と聞かれ困りました。お金と時間の問題さえなければ、訪問したかったのですが。

4人目となるバングラデシュの6歳の男の子 Sumon 君を先日紹介されました。送られてきたプロフィールは、パソコンで作成されたもので、彼の好きな遊びは「テレビを観ること」と書いてありました。インドネシアから送られてくるミスタイプばかりの手紙を苦労して読んだ頃からの進歩にあたりまえながら驚き、また Sumon 君の好きな遊びは、テレビを観ることとあるのに、またびっくりです。けれどもテレビに驚くような私のバングラデシュに対する認識こそ反省しなければいけないのでしょうが。

フォスタープランそのものもこの16年で随分会員も増えて、世間にも知られてきたようです。長男の中学校2年の英語の教科書にも取り上げられていました。

Sumon 君の紹介記事と一緒に送られてきた手紙の書き方には、ベンガル語の「こんにちは」「ありがとう」が書いてありました。真似をするのは難しそうな文字で、手紙には、お手本をまるまる上から写さないとなります。

ほんの小さな協力ですが、これからも続けていこうと思います。

お知らせ

1. 恒例の新年会の日程がきまりました。

日時 2001年1月19日（金）午後6時30分から午後9時

場所 如水会館

詳しい案内は別紙

2. 会員住所録の改定

例年どおり会員住所録の改定を行います。

変更のある方は、事務局まで至急ご連絡ください。

3. 会員異動

野澤 恵さん

プライスウォーターハウスクーパース コンサルタント株式会社